



あゆみ

青梅市立河辺小学校 学校便り
5月号 No. 663 令和5年5月1日
青梅市立河辺小学校 校長 関谷 望

「河辺しぐさ」 よりよい立ち居振る舞いにより、自他を尊重する

～離任式の様子から～

校長 関谷 望

4月28日（金）に離任式を行いました。今年3月で河辺小から異動となり、新たな場所でご活躍されている徳永一隆先生、肥後友輝先生、松木利樹先生、藤井洸志郎先生の4名の先生方がご来校くださいました。昨年度の離任式は、オンラインで放送室と各教室をつないでの開催でしたが、今年度は体育館に2年生以上が集まり、対面型で実施することができました。

先生方に、代表児童からお手紙と花束を贈り、先生方からはメッセージをいただきました。代表児童がお手紙を朗読する場面では、涙で言葉にならない姿もあり、会場中が別れの寂しさと先生への感謝の気持ちで包まれる感動的な式となりました。

異動された先生方は、それぞれのメッセージの中で、「異動して、あらためて感じた河辺小の子供たちのすばらしさ」についてたくさんお話いただきました。

「話し手に目と心に向けて、しっかり話が聞ける。」「話を、返事や反応をしながら聞ける。話を続けるとすぐに静かになる。」「感謝の気持ちを持ち『ありがとうございます』と口に出して言える。」「気持ちのこもったあいさつができる。」「『当たり前』のレベルが高い。」等々。そして「それは、上級生が下級生に行動で手本を見せてくれているから」とおっしゃっていただきました。

先生方が示してくださった事柄は、私自身が4年前に着任して以来、河辺小の子供たちと接しながら感じていることでもあります。きっと、10数年に渡り、伝統的に「よりよい立ち居振る舞いにより、自他を尊重すること」を学ぶ柱として「河辺しぐさ」を示し、学校全体で共通理解を図って指導し、積み重ねてきていることとも、その大きな要因となっていると思います。

河辺しぐさ

- ・元気にあいさつ
- ・はきはき返事
- ・目で聞き、心で聞く
- ・もくもく清掃
- ・靴そろえ
- ・ちょボラ
- ・いつでもありがとう

過去3年間はコロナ禍で多学年が集まり、対面型で活動できる機会はとても少ない状況でした。そんな中でも、河辺小の子供たちに、「大切にしているもの」が脈々と受け継がれていることが感じられた素敵なひとときとなりました。

また、今年度も「週の始まりを落ち着いてスタートする」「話の内容をしっかりと伝える」といったメリットから、児童朝会はオンラインで行っておりますが、「互いに高めあえる」という、みんなが一堂に会するよさをあらためて感じる機会ともなりました。

今後も、「時代の変化にかかわらず大切なもの」をしっかり指導しつつ、変化の激しい時代を生きる子供たちが必要となる力を育てていけることを目指し、教育活動を検討・実施・評価・見直ししていきます。ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。